

事業一覧



(単位: 千円)

■緊急経済対策事業..... 208,705

(ふるさと雇用再生特別基金事業)

● 中心市街地商店等魅力アップサポート事業	5,379
● 中心市街地賑わい拠点支援事業	5,098
● 朝倉氏遺跡時代衣装パフォーマンス事業	10,524
● 若年者就労支援事業	3,018
● 公園台帳整備・維持管理計画策定事業	10,847
● 墓地台帳整備・管理計画策定事業	10,994

(消費者行政活性化基金事業)

● 消費者行政活性化事業	7,500
--------------	-------

(安心こども基金事業)

● 保育所職員資質向上事業	6,972
---------------	-------

(市単独事業ほか)

● 小規模事業者サポート資金(緊急支援分)	
保証料及び利子補給金	76,278
● 稲作生産対策事業	2,388
● 村落広域営農支援事業	69,707

■経済危機対策事業..... 530,000

地域活性化・経済危機対策臨時交付金活用事業 243,000

(安全・安心確保等)

● 新型インフルエンザ対策事業	18,000
● 消防車両維持管理事業	18,000
● 学校施設安全・安心整備事業	58,000
● 学校給食センター設備改修事業	47,000
● 道路区画線整備事業	5,000
● 合流地区下水道施設安全対策事業	55,000
● 証明書自動交付機整備事業	28,000

(子育て支援)

● 子育て支援・少子化対策サイト開設事業	5,000
----------------------	-------

(中小企業支援)

● 小規模事業者経営改善資金(マル経資金)利子補給金	9,000
----------------------------	-------

■子育て応援特別手当交付金事業..... 287,000

(子育て支援)

● 子育て応援特別手当給付事業	287,000
-----------------	---------

6月議会報告

国の緊急経済対策事業として 合計 7億3千8百万円

国の緊急経済対策事業と経済危機対策事業分が6月議会に補正予算と追加補正予算として上程された。主な内容は、子育て支援として小学校就学前3年間の子、一人あたり8百万円、大雨時でも浮

りについて3万6千円を支給する事業に2億8千7百万円、安全、安心確保の為に新型インフルエンザ対策に千8百万、学校の防犯対策として5千等4回に渡る予算措置としてその一部が盛り込まれている。



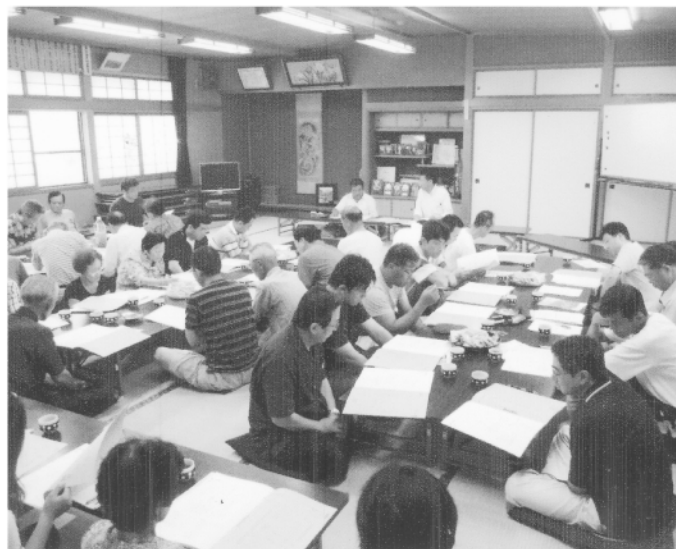
第17号

発行 青木みきお後援会
福井市市ノ瀬町21-18
☎0776(85)1466
発行責任者 青心会
会長 吉田 則夫
印刷 (有)いとう印刷

9月議会にも約20億円以上の追加対策予算が計上される見通しとなっている。本市の負担はほとんどない状況となっているが、いづれにしてもその内容については注視しなければならない。



市政報告会



去る8月9日(日)午後2時より、小幡町集落生活改善センターにおいて、約50名程の小幡町民の方々に集まって頂き、青木議員の方から、

・福井市の現状
・桑地区の交通事情
・桑地区が抱えている問題点
等を報告し、町民の方から質問を受けました。

町民の方からは、布施田橋から桑地区への道路について、非常に道幅が狭く危険なため、2車線道路を早急に造ってほしいとの意見や、もともと地元のことを優先して考え行動して欲しい旨の要望が出されました。青木議員からは、換地のこともあるので、時間を頂いて考えていきたい。等意見交換をしました。7月12日には、浜島町・7月25日には為寄・石島・田ノ頭・中山の4町内で行われ、今後は11月にかけて残りの町内にて、報告会を開催していく予定です。(広報部)

監査委員に選任される

6月定例議会にて議会より2名の選任がなされる福井市監査委員に、青木議員が選任された。

基本的な役割や使命は公正で合理的かつ能率的な市の行政運営確保のため、違法、不正の指摘にとどまらず指導することとされ「住民の福祉の増進と地方自治の本旨の実現に寄与する事」と監査基準に唱われています。

志成会 幹事長に再任

6月議会前の会派役員交替において平成19年度に引き続き2度目の幹事長となりました。

会 長 谷口 健次
幹事長 青木 幹雄
石口 清盛
石丸 浜夫
後藤 雄一
野嶋 祐記

二元代表制の地方議会

り。



広報部
インタビュー

青木議員二期六年目の真価を問う！

栗地区の市会議員 青木議員が誕生して早や2期6年目を迎えています。青木議員が私たちに公約してきたことはどのような状況となっているのでしょうか？今回は市政全般にわたる各種テーマを取り上げ、広報部が青木議員への直撃インタビューを行いました。

産業



Q 青木議員はとりわけ農政に明るいといわれていますが、まず農林水産業をはじめとする振興策についてどのような取り組みがなされてきたのでしょうか？

青木 国政において農林水産省と経済産業省の連携で第1次、第2次、第3次産業の連携を図り、第6次産業という取り組みによって、農林漁業者の経営の改善を図ろうとする税制、金融面をはじめとした総合的な支援措置がスタートしています。20年度には市役所に「地域資源・マーケット戦略会議」が設けられました。部局を横断して課題に対応する農工商連携推進班がつくられ、農林水産物を含めた地域資源の掘り起こし、活用方法が研究されています。また、専門的な調査・研究機関の協力を得て、農工商連携を視野に入れた市内製造業者の物づくりに対する動向を調査しているところでもあります。いづれにしても、食料自給率を上げる施策と同様に重要であると考えております。

Q 地元にはテクノポーターに企業が集積していますが、そのような企業の育成や企業の立地、誘致についてはどうお考

えですか？

青木 県内中小企業が展開している福井の物づくりの販路開拓、全国発信など、産業の育成は重要な施策です。また、雇用の拡大や産業構造の高度化を図るための企業誘致はさらに重要です。ところが、本市の企業に対する土地の利用条件や基準が画一的で、本市の企業が他市へ移るといっても多く聞かれています。都市計画としての土地利用、農地としての土地利用について、福井版の土地利用計画が必要と考えており、いわゆる「特区」というような考え方で対応が急務と思っています。

清水地域が合併され、たわけですが、福井市全体の周辺地域と市街地との調和を図るための交通体系については、どうなっているのですか？また、福井駅を中心とした市街地再開発事業についてもどのように市政を正してきたのですか？



青木 21年はふくいの交通元年と位置づけられ、福井市都市交通戦略に基づき、だれもが手軽に利用できる、人に優しく便利な全域交通ネットワークの実現に力を入れています。点が強調されています。特に本市は、車がないと安心して生活できない不便な町とされており、増加する高齢ドライバー、車を利用できない人の生活不安、徒歩や自転車での日常サービスを受けることが困難な状況が進む

都市計画
18年に美山、越廼

中で、だれもが安全で安心して快適に生活できるまちづくりは、公共交通の利便性の高いコンパクトな日常生活圏の構築と中心市街地の再生が不可欠であるといわれています。脱車社会の実現を図り、電気自動車の開発などに代表される次世代の車を意識した施策として、本市市政がどのような認識を持っているのか疑問です。

あわせて、福井駅西口駅前広場の再開発やAOS S A、響きのホール、中心市街地へ通じる都市計画道路の延伸ルートについても、経過や現状の

ただした事

- 人口が減少しないための施策について
- 出生率が減らない状況分析について
- 国の地方制度調査会の動向と道州制について
- 公民館単位での人口推移の取りまとめについて
- 農工商連携による取り組みについて
- 本市の県、国に対する重要要望事項について
- 行財政改革（行政のスリム化）について
- 第60回全国植樹祭について
- 市制施行120年の本年の取り組みについて
- 国債、県債、市債が年々増えている現状について
- 青年の現状と社会参加について
- 行政機構のあり方（都市戦略）と名称について
- 土地区画整理事業の見直しについて
- 下水道事業の今後の財政負担について
- 新幹線の経済効果と現状について
- 義務教育現場における事故の対応について
- 中心市街地の活性化と周辺部の潤いについて
- 農業（米）普及について
- 無年金障害者について
- 地方交付税の他市との差について
- 自動車保有台数が全国一の本市にあつたの公共交通のあり方について
- 少子化対策について
- 公の施設の管理運営について
- 西口再開発ビルの基本的考え方について
- LRT（低床電車）等の導入をふまえた見直しについて
- 都市計画マスタープランと土地の有効利用について
- 地価が下がる原因について
- 食育と市民の健康保全について

対応について行政側の方針を確認・チェックしてきました。

福祉・教育

Q 福祉関連の施策についてですが、地域に住む高齢者の生きがい対策、介護ボランティア、それに障害者に対する福祉サービスについては、どのようなことをクロージアアップしてきたのでしょうか？

青木 まず、高齢者にとつての介護予防が重点課題と考え、介護予防教室などの虚弱高齢者を対象とした事業についての課題をはじめとして、将来的な介護予防対策についての取り組みについて正してきました。

介護保険法が改正されたから、予防重視型システムが確立され、要支援、要介護状態にならないよう介護予防事業が実施されているようです。その事業の一環である介護予防教室は、専門的な方法で運動機能向上や栄養改善、口腔機能の向上が図られていて、今後も、この事業に参加した方々の生活機能に関する追跡調査を行うというような状況です。

元気な高齢者寄りによる介護ボランティアポイント制のネーミングやポイント制に関する将来性や市内どこでも通用するといった地域通貨のような信頼性についてもスポットを当てました。

三世代の同居が多い本市の状況を基本的には今後も続けていく事が重要だと思えます。

Q 教育県としても有名な福井における教育問題をどのようにとらえていますか？また、これまで市議として、どのようなことに取り組みされたのですか？

青木 全国的にも素晴らしい記録を残している全国学力・学習状況調査（本県小学校2位・中学校1位）の実態を把握したうえで、小・中学校で行われた教師、児童・生徒、親関係者に対するアンケート調査の内容や分析した結果の生かされ方を正しました。

また、財源比率のうえで、教育関連予算が、社会福祉予算あるいは農林水産予算に対して国県支出金の割合が低く、一般財源の割合が高くなっていることを指摘したところでした。

行政改革



Q 本市は全国的に見ても健全財政で豊かな自治体というように評価を受けていると聞きまして、本当にそうなのではないですか？議会としては、どのようなチェック機能を果たしてきたのでしょうか？

青木 総務省自治財政局により公表されている平成20年度地方財政計画の概要に当てはめてみると、本市は全国的に見ても極めて財源の豊かな自治体と、国からは見なされているといえるでしょう。ただし、この財政は、これまで財政健全化計画の推進によって、本来やらなければならないことを我慢して今日を迎えている

と、言っても過言ではないと思います。今は生活のインフラ整備が求められている状況を考えると、強く国に是正を求めて、交付税増額を果たさなければならぬと考えています。

このことについて、東村市長も一般財源が減少している状況にあるという認識のもと、地方交付税が5・1兆円削減されて、本市にとっても大きな影響があることを話されています。地方分権を推進していく上で自治体の基盤強化は不可欠であり、全国市長会等の関係機関と力を合わせ、国に対して財政調整機能を有する自主財源の強化について強く要望していくところでした。

編集後記



◇ 今回の新聞では、新しい試み第二弾として議員にインタビューをしてみました。いかがでしたか？広報部としては、インタビューを通して、青木議員から聞かれた一言一言は、とても重要なことばかりで、私たちの生活に直結していることを肌で感じるものが出来ました。自分たちの問題であることと意識しながら、市政に関する話し合いが出来たことは大変貴重な時間でした。

広報担当

南葉 月葉
福田 一博
総彦 雅範